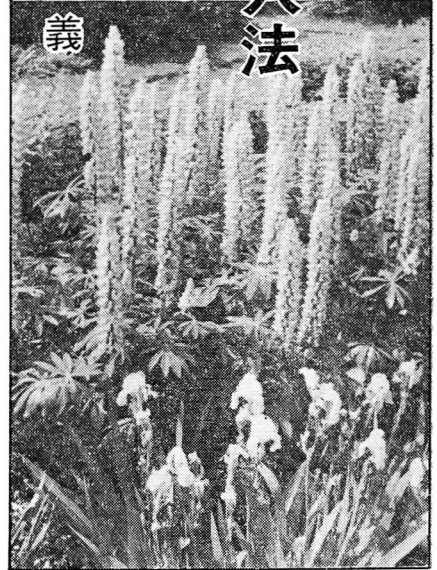


# 庭さきをいろいろ

## 花壇の設計と手入れ法

北海道大学農学部助教授

奥村実義



家のまわりに花を植える場合には、花壇を設ける場合が多いが、まず、どういう場所を、どんなデザインのものに設けるのかを検討し、同時に、どんな材料を使って、どういう植え方をし、さらに、これをどう管理するのかについても、およその見当をつけておかなければならない。

もちろん、めんどうなことを考えずに、ただ植えさえすればよいという考えもあるが、また、だれがどういおうと、自分分はこれでよいのだという向きもある。しかし、せっかくならば庭さきも、少しでも美しくとねがう立場から、庭さきに設ける花壇の設計とつくり方、手入れの仕方をも説明しよう。

### 一 花壇の基礎知識

どういう花壇にするかは、つくる人の自由であるが、花壇の様式としては、つぎのようなものがある。

#### ① 模様花壇

花壇を立体的なものとするか、平面的なものとするかという角度から分けると、この花壇は平面花壇に属する。

したがって、矮性の花を用い、見おろして觀賞できるようにつくる花壇で、狭い意味では、毛せん花壇のように、あたかもジュウタンを敷いたような平面的なものとなるが、多少の起伏はあった方が、かえって見ばえすることが多い。

この花壇を設計する場合には、形式風なデザインが採用され、図案——たとえば、幾何学的模様とか、カラクサ模様、インドサラサ模様など——をまず考えてみて、その各区画に、どんな色を配するかを検討することとなる。

図案がいわゆる毛せん模様、カラクサ模様、インドサラサ模様などの場合には、主として対称的なデザインとなろうが、必ずしも対称（中心から左右あるいは前後に、同様の主調が安定感をもって整然と増減する）という形式にとられる必要はなく、むしろ量的なバランス（釣り合い）に重点をおいた図案を考えた方が、ずっとアカマケしたものとなる場合が多い。さらに、構図が細かすぎて、単位が多様にすぎるときには、対称そのものの美的価値が失われ、印象に乏しい単調なものに陥りやすい。

また、構図に対称や釣り合いが考慮されない場合でも、対比（コントラストのこと）で、たとえば、形では円形と三角形とか、色では白と黒など）の形式を採用した形式風な平面花壇を考へることもできる。対比を強調した幾何学的模様を採用する場合などで、いわゆる毛せん花壇よりは強烈な印象を与えることが多いので、通りすがりにながめる街路花壇などにはよいが、毎日ながめる家庭の花壇には不適当といえよう。

毛せん花壇の場合には、確かにもっとも美しいし、技術的にもこつた花壇であるが、それだけに造成も大変である。とくに、短期間のものであればいざ知らず、春から秋までの長期間にわたって、いつも美しい状態を維持するとなれば、植える材料植物も大量に要する（したがって、費用が非常にかさむ）し、管理もむずかしい。

#### ② 花そう花壇

模様花壇が、平面的で形式風なのに対して、花そう花壇の方は、立体的で、非形式風、自然風である。

つまり、ながめる前側に低い花を、後ろ側に高い花を配して、側面から觀賞できるようにし、また、材料の扱い方も自然的なものとして、それぞれの花の個性を生かしながら、全体の調和をはかるようにつくる花壇である。

普通の家庭では、花壇を設ける場所の後方に、建物があったり、生け垣やヘイがあったりする場合がきわめて多いが、このような場所に設けるには、花そう花壇である境界花壇が適している。

境界花壇は、建物やヘイなど、地面からまっすぐ立ち上がる堅い面を緩和して、やわらかい緩衝帯となるとともに、生け垣などがとくにそうであるが、とかく立ち上が

りの地際のみにくさをかくす効果もある。

しかも、模様やその配色を生命とする毛せん花壇などと違って、ここでは、それぞれの花が、ごく自然に個性美を競い、それでいて季節的にも、また、高さや色彩の点でも、一定の均衡のとれた調和をもたせることができる。

また、材料も、比較的手のかからない宿根草、花木類、ときには球根類や一二年草を混ぜて用いることができるので、住人の花趣味を生かすことができ、しかも費用の方もずっと安上がりである。

寄せ植え花壇は、同様の花そう花壇であるが、この方は、建物や生け垣などの前面でなく、開放された空間に設けられて、四方からながめられるようにつくられる。普通の家庭では、敷地面積の都合で、それほど大きなものは設けにくいし、したがって、中央部の高さも低くなって、一見、ごく単純な模様花壇風なものとなりやすい。

### 《洋風か和風か》

建物が和風で、しかもこれに和風庭園がついているような場合には、このなかには、ボタンやシヤクヤク、ハナシユウブ、ツツジ、キク、その他野草類などによる日本趣味の花壇も考えられようが、これは、現代の生活のなかでは、ごくまれであろう。

一方、洋風建築に形式風な、しかも広々とした洋風庭園が設けられているような場合には、毛せん花壇など、華美な模様花壇が、その良さを発揮できる。しかし、現代のわれわれの生活様式から見ると、むしろ、両者を折衷したものがほとんどなろう。

そうならば、当然、境花壇や寄せ植え花壇をとり入れることになろうし、植え込む材料もいろいろなものが採用されることとなる。

## 二 設計のすすめ方

花壇の設計にさきだつて、まず、住居の敷地全体の平面図をつくり、建物や門、通路、サービスマード(物干し場や作業用地など)、庭木、生け垣などの位置を、それぞれ正確に記入した後、花壇を設ける場所と、その様式、寸法などを決める。

この場合、どこからながめる花壇か、そして、周囲や背景はどうなっているか、および、日あたりや土壌条件(とくに乾湿、積雪など)の検討を要する。

これが決まったら、一つ一つの花壇の拡大図を方眼紙に描き、区画割りに移る。

### ① 模様花壇

模様花壇の区画割りは、定規とコンパスなどを用いて、正確に描かなければならない。ついで、配色を考えながら、各区画を着色してみることにする。

とくに注意すべきことは、花壇では、できた模様をイキモノである草花をもって埋め、図案を表現するのであるから、構図が複雑にすぎると失敗しやすい。また、図上では、赤とか黄とか決めても植物である以上、少なくとも花八、葉二くらいは割り合いで、葉の緑がはいってくる

ことである。

したがって、設計図とでき上がった花壇との間には、往々にして、思いがけないくい違いが生じやすく、模様花壇に経験と技術がとくに要求されるのは、このせいでもある。

### ② 花そう花壇

花そう花壇の方は、花壇のワクさえ決まれば、植栽群(一種類ずつまとめて、一かたまりに植える)即区画割りとなるので、方眼紙の目数をたよりに実際の寸法を勘案しながら、フリーハンドで描いてよい。

この場合には、むしろ、各植栽群の花の種類と広さ(普通は直径五〇—一〇〇センチ、および群と群の間隔(草丈の低い花で三〇

センチ、高くて分枝する花では五〇センチくらい)

など、どちらかというところ、後の植栽計画との関連を考慮しながら、およその配置図を描くことになる。したがって、植栽される花の種類ごとの花期、花色、草姿草丈などを吟味し、できれば時期ごとの花見見取図を描きながら割りつけてゆく方がよい。

なお、花壇の形は、境花壇では、矩形(細長く)、カギ形(スミを使うとき)ないし、これらの前線がゆるやかに湾曲したものとなる。花床の向きは眺望線になるべく沿って細長く見せるのが効果的で、長さは多少長めの方がよいが、幅は管理の都合上からも一五〇—二〇〇センチが好ましい(三〇〇センチになると管理しにくい)。

寄せ植え花壇の方は、円形とか方形、あるいはこれに近い単純な形がよい。

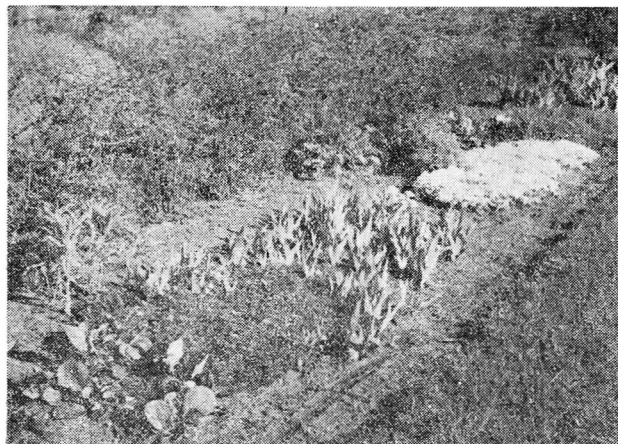
## 三 植栽計画

花壇の植栽計画は、設計をすすめる段階で、すではいり込んでくるもので、とくに花そう花壇では、両者は表裏一体をなすものであるが、便宜上わけて述べる。

### ① 模様花壇

模様を現わす各区画の配色が決まったら、つぎに、どの花をその部分に植えるかについて検討することとなるが、模様花壇の場合、花期ができるだけ長く、しかも全面が咲きそろった状態で長続きしなければならぬ。

したがって、つぎつぎと開花する一年生草花が中心となり、宿根草では、デージーやモヨウビユ、ペンケイソウなど、若干の



種類が加わるにすぎない。

暖地ならば、春―初夏花壇に、秋まき一年草が多く利用できるが、寒地では、この時期には、パンジー、デージー、ワスレナグサなど、ごく限られた種類しか用いられない。寒地での模様花壇は、夏―秋花壇に力を注がざるをえない。

### ② 花そう花壇

模様花壇が配色に重きをおき、全面がそろって色彩を現わさなければならぬにくらべて、この方は、全部がそろって咲いている必要はない。むしろ、それぞれの花の個性を生かして、全体の調和を考えるものなので、宿根草をたくさん用いることができる。

境栽花壇では、前側に矮性の花を、後側に高性の花を配植するが、あまりに斉一になると、いわゆるヒナ壇となってしまうので、多少の出入り、アクセントをつけるようにする。そして、隣りあわせの花の高低差が、極端に大きくないようにし、全体として、「うねり」のような変化をもたせる。色彩についても同様で、鮮明なコントラストをさけ、中間色をはさんで、やわらかく変化させる。一般に、赤や橙系の暖色を前に、青系(寒色)は後ろになる方が望ましく、また、アクセントをつける場合には、目立つ花を配する。

材料としては、宿根草を主体とし、これに、花木、球根草花、ときには一年草を混植することとなる。

寄せ植え花壇の配植は、中央部に高性の花を配し、まわりに向かって低い花を植え

る。大型の花壇であれば、周縁に縁取りも行なわれるが、家庭ではそれだけのスペースはめつたにとれまい。

材料は、中心部に整形の灌木、まわりに草花となるが、観葉ものを多用する方が上品な花壇となる。

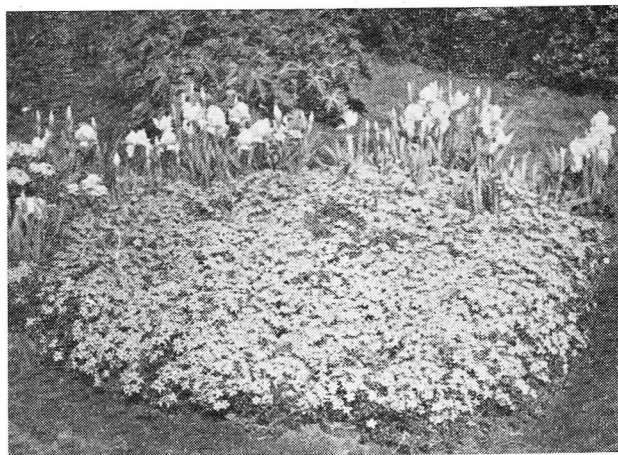
### 四 造成と管理

花壇の地ごしらえは、どんな花壇の場合でも同様で、よく耕して雑草の根や石コロを完全に取除き、土壌酸度を矯正し、堆厩肥などを施した後、整地する。施肥は、とくに、宿根草や花木では、熔リンなどが効きするリン酸分を使うこと。

つぎに、花壇の寸法を实地にとり、まわりに縁取りをする。縁取り資材にはいろいろなものがあるが、レンガが手ごろであろう。

植え込みの準備がととのったら、設計図にもとづいて地割りにかかるが、模様花壇では、石灰でも用いて、正確に模様を描き上げる、花そう花壇では、縁石(レンガ)に、五〇センチ間隔くらいに目印をつけておき、ヒモを張って、勘で植えることができよう。管理は、一年草を主体とした模様花壇では、シーズン中、ダメになる個体の交換が主で、このためには、別に苗床を用意しておき、いつでも補充できるようにする。

境栽花壇のように、宿根草を主体とした花そう花壇では、時折り見回って、枯れた部分など見苦しいものを除き、支柱を要する花などは、目立たぬようにこれを立てる。



宿根草を主体とした場合には、花壇が本来に美しくなるのは二―三年目で、さらに二―三年たつと、とかく管理のよしあしによる、出来不出来が目立ってくるものである。

日常の管理としては、薬剤散布による病虫害の防除はもちろん、追肥、春と秋の枯れ草整理、茂りすぎの間引き、ときには植え直しなど、きちんと行なう必要がある。

### 五 材料植物

花壇に用いられる一、二年草、宿根草、球根類、花木類などの種類は非常に多いが、家庭では、とかく環境条件のわるいことが多いので、まずこれを説明しよう。

#### ① 日陰に耐える花

植物である以上、極度の日陰では育ちにくい、多少日陰でもなんとか育つもの、あるいは、真夏は半日陰の方がよいものとして、宿根草ではキボウシ、ミヤコワスレ、キキョウ、シオン、フクジュソウ、サクランボ類、デージー、スズラン、西洋オダマキ、アステルベ、リオン、シュウメイギクなどがあり、球根類ではユリ類が、花木類ではツツジ、シャクナゲ、シモツケなどのほか、耐寒性では難があるが、ジンチョウゲ、クチナシ、アジサイなどがある。このほか、花ものではないが、アオキ、マサキ、シノブヒバ、チャボヒバなども、ところによっては使うことができる。なお、一、二年草は概して日あたりのよい場所に適し、日陰では徒長しやすく、花つきがあらぬものである。

#### ② 湿地に耐える花

宿根草ではハナショウブ、ギボウシ、キスゲ、リンドウ、フクジュソウ、サクラソウ、リユウキンカ、トリトマ、リオン、シヤクヤク、アスチルベ、スズランなどが比較的湿地に耐え、花木類では、アジサイ、ヤマブキ、シモツケ、ムクゲ、ドウダンツツジ、アオキ、マサキなどがある。

#### ③ 乾燥地に耐える花

とくに、乾燥地でもよい花は、宿根草ではモス・フロックス、アラビス、アルメリア、ドイツアヤメ、ナツユキソウ、宿根カスミソウ、ベンケイソウ、ノコギリソウ、セラスチウムなど、花木類ではハマナス、ボケ、エニシダ、ミツバツツジなどがあり、

一年草ではアリッサム、キンレンカ、マツバボタンなどがある。

④ 酸性土壌を好む花

土壌の酸度は矯正できるが、植物によって、生育に適した酸度がちがうので、PHを高めるときには石灰、低くするときにはピート・モスを用いて調節するとよい。

酸性土壌を好む花は、宿根草ではスズラン、シダ類(PH・五くらい)、キク、ユーホルビア、サクラソウ類、アスチルベ(PH・六・六・五)、花木類では、ツツジ類、シヤクナゲ、エリカ、クチナシなど(PH・四一六)があり、たいいていの花は、ほぼ中性土壌を好むが、なかにはガーベラ(宿根草)やスイートピー、キンセンカ(一年草)などのように酸性土壌をきらう花もある。

⑤ イヤ地現象を示す花

キクは、植えっ放しにしておくと、株の中心部から萌芽しなくなり、まわりへひろがって生育するので、二一三年おきに場所を替えて植え直す。バラも、枯損株がでた跡地は、土を入れ替えて新植する方がよい。また、一年草ではスイートピーとアスターが連作できない花、とくにアスターは、一度植えると、病害の関係で何年たってもダメなケースが多い。



球 根 類 (寒 地)

草 花 名	花 の 色	花 期	草 丈	備 考
ア リ ア ム (各種)	種類により桃, 紫, 白など	春 ~ 初 夏	20(矮)~ 60 cm	秋植, 実生(春)
ア ネ モ ネ	赤, 桃, 紫, 白	春 ~ 初 夏	20	秋植, 耐寒性弱い
イ ヌ サ フ ラ ン	紫	秋 末	20	秋植
ス ノ ー フ レ ー ク	白	春	25	秋植
ユ リ 類 (各種)	種類により桃, 橙, 黄, 白	初 夏 ~ 夏	30(矮)~100 以上	秋植, 道東地方では一部春植
ク ロ ッ カ ス	紫, 白, 黄	春	10	秋植
ク ロ ヌ リ	黒紫	初 夏	30	秋植
ガ ル ト ニ ア	白	夏	100 以上	秋植, 春植も可
早 咲 グ ラ ジ オ ラ ス	赤, 桃, 白	初 夏	50	秋植, 耐寒性弱い
ヒ ヤ シ ン ス	赤, 桃, 紫, 白	春	20	秋植
ダ ッ チ ア イ リ ス	紫, 青, 黄, 白	初 夏	40	秋植 (なるべくおそく)
イ ギ リ ス ア ヤ メ	紫, 青, 白	初 夏	40	秋植
ム ス カ リ ー	紫	春	10	秋植
ス イ セ ン (各種)	黄, 白	春	30	秋植
シ ラ ー	桃, 青, 白	春	20	秋植
モ ン ト プ レ チ ア	橙, 黄	初 夏 ~ 夏	40	秋植
チ ュ ー リ ッ プ (各種)	赤, 桃, 紫, 黄, 白など	春	20(矮)~40	秋植
カ ン ナ	赤, 黄, 白	夏 ~ 秋	100 以上	春植, 夏の気温低い処では咲かない
ダ リ ア	赤, 桃, 紫, 黄, 白など	夏 ~ 秋	100 以上	春植
グ ラ ジ オ ラ ス	赤, 桃, 紫, 黄, 白など	夏 ~ 秋	100 以上	春植

1 ・ 2 年 生 草 花 (寒 地)

草 花 名	花 の 色	花 期	草 丈	備 考
○キ ン ギ ョ ソ ウ	赤, 桃, 黄, 白など	7 月 ~ 秋	20(矮)~ 60 cm	育苗
キ ン セ ン カ	橙, 黄	7 月 ~ 秋	30	
エ ゾ ギ ク (アスター)	赤, 桃, 紫, 白など	7 月 ~ 秋	15(矮)~ 60	立枯病多く連作不可
ヤ グ ル マ ギ ク	紫, 桃, 白	7 月 ~ 8 月	60	
キ ン ケ イ ギ ク	黄	7 月 ~ 秋	50	
ハ ナ ビ シ ソ ウ	橙, 黄, 白	7 月 ~ 8 月	30	
カ ス ミ ソ ウ	白, 紅	7 月 ~ 8 月	40	
キャンデイトフト	白	7 月 ~ 8 月	25	
ス イ ー ト ピ ー	赤, 桃, 紫, 白	7 月 ~ 8 月	20(矮)~100 以上	つる性種は支柱
ロ ベ リ ア	青, 白	7 月 ~ 8 月	10	育苗
ス ト ッ ク	赤, 桃, 紫, 白	7 月 ~ 8 月	30~60	育苗
○フ ス レ ナ グ サ	青, 桃, 白	5 月 ~ 6 月	20	前年夏まき, 露地で越冬2年草
◎ペ チ ュ ニ ア	赤, 桃, 紫, 白	7 月 ~ 秋	40	育苗
キ キ ョ ウ ナ デ シ コ	赤, 桃, 白	7 月 ~ 秋	30	
◎パ ン ジ ー	紫, 青, 黄, 白など	5 月 ~ 7 月	15	前年7月まき, 露地で越冬1年草
○ビ オ ラ ・ コ ー ニ ュ タ	紫	5 月 ~ 秋	10	前年7月まき, 露地で越冬1年草
○ア ゲ ラ タ ム	青, 白	7 月 ~ 8 月	15	育苗
タ チ ア オ イ	紅, 桃, 白	7 月	150	2年草~(宿根草)
ハ ゲ イ ト ウ	観葉(複色)	7 月 ~ 秋	100	
カ イ ザ イ ク	紅, アイ, 白	7 月 ~ 秋	70	乾燥花になる

(次ページにつづく)

草花名	花の色	花期	草丈	備考
アークトチス	白	7月～秋	50cm	
○ハボタ	観葉(複色)	10月～冬	30	
◎ケイトウ	赤, 黄	7月～秋	20(矮)~100	トサカケイトウ, 羽毛ケイトウなど
クレスメ	桃	7月～秋	80	
◎コリウス	観葉(複色)	7月～秋	50	育苗
コスモス	赤, 桃, 白	7月～秋	100以上	黄花コスモスもあり
ユニホルビア	観葉(複色)	7月～秋	50	
センニチコウ	紅, 紫, 白	7月～秋	40	
ヒマワリ	黄	7月～秋	100以上	
ホウセンカ	紅, 桃, 紫, 白	7月～秋	40	
ハナホウキギ	観葉(緑)	7月～秋	40	
オシロイバナ	紅, 桃, 白	7月～秋	70	
アサガオ	紅, 桃, 紫, 白	7月～秋	100以上	つる性, 支柱要す
○マツバ	赤, 桃, 黄, 白	7月～8月	10	
◎サルビア	赤, 紫, 白	7月～秋	20(矮)~50	育苗
◎マリーゴールド	橙, 黄	7月～秋	30(矮)~70	
キンレンカ	橙, 黄	7月～9月	20(矮)~100以上	つる性種は支柱要す
ルコウソウ	赤	7月～秋	100以上	つる性, 支柱要す, 白花種あり
ジニア(百日草)	赤, 桃, 黄, 白	7月～秋	60	

◎ 模様花壇用としてとくに繁用。 ○ 繁用。

宿 根 草 (寒 地)

草花名	花の色	花期	草丈	備考
アラビシ	桃, 白	春	15cm	実生(春)
ハマカンザシ	桃	春	15	株分(秋), さし芽も可
オーブリチア	紫, 桃	春～初夏	10	実生(春)
ノコギリソウ	白, 淡紅	初夏	60	キバナノコギリソウあり, 株分(秋)
フクジュソウ	黄, 橙	春	15	株分(秋)
アリッサム	黄	初夏	15	実生(春)
キササゲ	赤, 桃, 紫, 青, 黄, 白	初夏	60	実生(春), 移植は9月
アスクレピア	橙	夏初～夏	40	実生(春)
ミヤコワスレ	紫, 桃, 白	初夏～夏	30	株分(秋)
シオン	あい	秋末	100以上	株分(秋)
アスチルベ	桃, 白	夏	60	株分(秋)
○ヒナギク(デージー)	赤, 桃, 白	春～初夏	10	実生(春), 良花は株分(9月)
ヒオウギ	橙	夏	70	実生(春)
カンパズラ・カルパチカ	紫, 白	夏	10	実生(春)
ヤツシロソウ	紫	夏	60	株分(秋)
リオン	桃	秋	70	株分(秋)
シヤスター・デージー	白	初夏～夏	60	株分(秋)
赤花ムシヨケギク	赤, 桃, 白	初夏	70	実生(春)
クレマチス	紫, 白	夏	100以上	つる性, 支柱要す, 苗購入(春)
ヒゲナデシコ	赤, 桃, 白	夏	50	(ほかに, ナデシコ類多い)
ケマンソウ	桃	初夏	40	株分(秋)
ジギタリス	桃, 白	初夏	70前後	実生(春)
エゾリンドウ	青紫	秋	70	株分(秋)
ガクベラ	赤, 桃, 白	夏～秋	40	耐寒性弱い, 株分(春)
ギボウシ	藤紫, 白	夏	30(矮)~80	株分(秋)
ドイツアヤメ	紫, 褐~黄	初夏	40	ハナショウブ, カキツバタなどアヤメ類多い, 株分(夏)
トリトマ	橙, 黄	夏	70	株分(夏)
リアトリス	紫	夏	60~100以上	各種あり, 株分, 実生(春)
ルビン	桃, 紫, 白	初夏	80	実生(春), 移植に弱い
シャクヤク	赤, 桃, 白	初夏	80	株分(9月)
オニゲシ	赤	初夏	60	実生(春)
クサキョウチクトウ	赤, 桃, 紫, 白	夏	80	株分(秋)
ヒエンソウ	紫, 青, 白	初夏	60(矮)~100以上	実生(春), さし芽可(春と夏)
モス・フロックス	桃, 藤, 白	春	10	株分(夏)
キキョウ	紫, 白	夏	80	株分(秋)
サクランボ	赤, 桃, 黄, 白	春～初夏	15(矮)~40	実生(春), 株分(9月)
アキノキリンソウ	黄	夏	80	株分(秋)
スターチス	青紫	夏	60	実生(春), 株分は傷みやすい
○モウビユ	観葉	夏～秋	10	さし芽(冬温室必要)

○ 模様花だんに用いられる。